

(3) 気管支ぜん息の動向等に関する調査研究

①気管支ぜん息患者の長期経過及び変動要因 気管支ぜん息の動向等に関する調査研究

研究代表者： 谷 口 正 実

【研究課題の概要・目的】

■小児喘息部門：

これまでの海外の長期予後調査から喘息児の呼吸機能は比較的 low年齢から低下し、喘息のない児との差は加齢でも変化しないことが示唆されている。(AJRCCM 2005;172:1253-)では一過性喘息群(3歳未満では喘息があったが6歳時点ではなし)の児と持続性喘息群(3歳未満かつ6歳時点で喘息あり)の児は喘息のなかった児と比較して有意に6歳以降で1秒量、1秒率の低下を認めており、経年齢的变化はどの群も同様であった。3歳から26歳までの経過を追跡している(NEJM 2003;349:1414-2)では持続性に喘息を認める児は喘息がない、あるいは一過性喘息の児と比較して9歳時点で有意に一秒率が低下しておりその差は加齢とともに変わらない結果であった。

これらの調査では治療の有無による差はなかったとしているが、吸入ステロイドや抗ロイコトリエン薬が広く普及する以前に開始された調査であり、現行ガイドラインの治療がなされている中でも幼小児期の喘息と肺機能の関連が同様であるかはわかっていない。

本調査研究は平成15年から発症早期の小児喘息患者および喘息を経験した乳幼児の2群を医療機関で抽出し、その後定期的にフォローアップしている(以下予後調査と記載)。そこで平成26年度はこれらの児の予後と治療、呼吸機能の関連を検討することを目的とした調査を行った。

■成人喘息部門：

(背景)

最近の我々の横断的研究により、日本人成人喘息の増悪・発症因子として、メタボ因子が初めて同定された。今回は、約10万人の健保組合電子レセプト内容とメタボ検診結果を調査し、メタボ各因子(喫煙含め)や各種背景(他疾患、医療内容など)が成人後の喘息発症や非寛解に関与するか、を前向きに検討する。

以上の成果(小児、成人)は、ソフト3事業の効果の検証につながるとともに、今後の事業内容への重要な資料を提供する研究となる。さらに、日本人喘息(小児、成人)の予後、増悪背景などを、前向きに初めて証明しうる研究であり、その結果を生かした精度の高い自己管理方法の提唱が今後可能になる。

1 研究従事者(○印は研究リーダー)

■小児喘息部門：

- 赤澤 晃 東京都立小児総合医療センターアレルギー科 部長
- 藤澤 隆夫 国立病院機構三重病院 副院長
- 海老澤 元宏 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター アレルギー性疾患研究部長
- 小田嶋 博 国立病院機構福岡病院 副院長
- 渡辺 博子 国立病院機構神奈川病院 小児科 医員
- 佐々木 真理 東京都立小児総合医療センターアレルギー科 医師
- 古川 真弓 東京都立小児総合医療センターアレルギー科 医師(非常勤)

■成人喘息部門：

- 谷口 正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター センター長
- 下田 照文 国立病院機構福岡病院 臨床研究部長
- 岡田 千春 国立病院機構本部 医療部 病院支援部長
- 中村 陽一 横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター センター長
- 福富 友馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室長

2 平成26年度の研究目的

■小児喘息部門：

過去海外の調査では喘息治療の有無による肺機能低下差はなかったとしているが、吸入ステロイドや抗ロイコトリエン薬が広く普及する以前に開始された調査であり、現行ガイドラインの治療がなされている中でも幼小児期の喘鳴と肺機能の関連が同様であるかはわかっていない。

本調査研究は平成15年から発症早期の小児喘息患者および喘鳴を経験した乳幼児の2群を医療機関で抽出し、その後定期的にフォローアップしている（以下予後調査と記載）。そこで平成26年度はこれらの児の予後と治療、呼吸機能の関連を検討することを目的とした調査を行った。

小児喘息においては、抗炎症治療を受けた小児喘息患者の長期的予後を思春期、成人期まで喘息の寛解、治癒、再発、COPDの発症までを前方視的に調査していくことは、世界的に奨められているガイドラインの抗炎症治療の評価にあたり、吸入ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬、環境要因などの影響を推測することができ、今後の小児気管支喘息治療ガイドラインにおいて、治療薬の評価、患者教育の際の指針の作成、教育方法の作成に重要な資料となることが期待される。

今回の調査期間で、多くの対象者が思春期年齢となり、思春期での寛解率をみることができると、さらに、呼吸機能に関する評価ができることは、肺機能低下の有無を検証することができる。

■成人喘息部門：

日本人成人喘息の発症、予後を主要評価項目とした前向き研究を、電子レセプト内容とメタボ検診結果を併せてビッグデータから[10万人]調査し、メタボ各因子（喫煙含む）や各種背景（他疾患など）が成人後喘息発症に関与するか、を前向きに検討する（主要調査）。また喘息医療実態、およびそれとメタボ因子との関連も横断的研究でさらに正確に明らかにする（副次調査）。

以上の成果（小児、成人）は、ソフト3事業の効果の検証につながるとともに、今後の事業内容への重要な資料を提供する研究となる。さらに、日本人喘息（小児、成人）の予後、増悪背景などを、前向きに初めて証明しうる研究であり、その結果を生かした精度の高い自己管理方法の提唱が今後可能になる。

3 平成26年度の研究対象及び方法

■小児喘息部門：

過去にも報告している通り、予後調査を実施する対象患者群は喘鳴を伴う乳児群（喘鳴群）と気管支喘息群（喘息群）の2群を設定し、長期間にわたり経過を観察するシステムを構築した。対象患者群の喘鳴を伴う乳児群の条件は、これまで気管支喘息と診断されていないこと、過去1年以内に1回以上の喘鳴のエピソードがあること、喘鳴の発症が6歳未満であることとした。気管支喘息群の条件は、気管支喘息を20歳未満で発症してから1年以内もしくは4歳未満の喘息児であること、気管支喘息の診断基準は、繰り返し喘鳴を伴う呼吸困難発作があること、気管支拡張薬の吸入により呼吸困難の改善、肺機能の改善があること、他の喘鳴を伴う疾患が除外できることとした。調査期間は、乳幼児期からの喘息が学童期、思春期に寛解あるいは増悪していく経過および成人喘息への移行を観察出来るようにするために20年間、40年間の予後を観察できるように設定している。2004年から2006年にかけて全国の日本小児アレルギー学会会員の医師に呼びかけ、対象患者の登録を依頼した。登録医による説明と同意を文書で行い、登録医から登録票と同意書を健康調査係のある国立成育医療センター健康調査係に送付されると、健康調査係で予後調査システムに患者登録を行い、その後健康調査係から郵送で対象患者の自宅に調査用紙を定期的に発送、回収する方法で行っている。平成22年度からは、健康調査係を東京都立小児総合医療センターアレルギー科内に移設した。

調査のスケジュールは、登録直後に第1回調査用紙（基本調査票、家族歴、既往歴調査票、環境調査票、症状調査票、治療内容調査票、QOL調査票、検査結果調査票）を配布してその後3か月ごとに症状調査票、治療内容調査票、QOL調査票の送付、回収を行った。2年目は6か月ごと、3年目からは年1回の調査とし、継続の同意は1年毎に取得している。患者登録は、2004年から

2006年までに行い、気管支喘息群（喘息群）852人と喘鳴を伴う乳幼児群（喘鳴群）382人、合計1234名が登録された。

平成26年度はこれらの登録児に対し簡易呼吸機能検査機器（アスマワン）を送付し、自宅で3日間にわたり測定することを依頼した。検査機器とともに検査方法の説明用紙、記録用紙を同封した（図1）。また過去の1年間の症状の経過（図2）、治療薬の内容（図3）を記入する質問用紙とともに現在の症状のコントロール状況を評価するために喘息コントロールテスト（12歳以上用）/小児喘息コントロールテスト（4～11歳用）への記入を依頼した。

～（小児喘息部門）図1～

アスマワンの測定方法

- 1 マウスピースを装着します。

P ポイントを記載しています。

! 注意点を記載しています。
- 2 白いボタンを長押しして、電源を入れます。

P 電源が入ると、「ピッピッ」と音が鳴り、画面の右下にこのマークが出てきます。測定の手続きは完了です。
- 3 できるだけたくさん息を吸います。

P これ以上吸えないというくらいまで、思いっきり息を吸います

! マウスピースには、一方弁がついているため、くわえたまま息を吸うことはできません。
- 4 鼻をつまみます。（保護者が子どもの鼻をつまんでも結構です）

- 5 マウスピースをしっかりとわえて、勢いよくいきいき息を吐き出します。

P マウスピースと口の隙間から息が漏れないようにしっかりとわえます。
- 6 「ピッピッ」と音が鳴ったら測定終了です。

!

 正しく測定できていない（エラー時は、「ピー、ピッピッ」と音が鳴ります。また画面に測定値の後ろに「！」が現れます。）
 ③からもう一度やり直して下さい。
- 7 画面の測定値右用紙に記載します。（PEFとFEV₁は交互に表示されます。測定値はPEFとFEV₁の2種類があります。測定値を記録用紙に記載してください）

!

エラーの原因と対策
 主なエラーは以下の2つが原因です。
 ● ゆっくり吸気始めてしまった
 → 思いっきり一気に吐きましょう
 （吹き始めから、ピーク（トップスピード）に到達するまでの時間が0.12秒以上かかると、エラーになります。）
 ● 鼻が出ている
 → 鼻が塞がっているからやりましょう
 （鼻栓の挿入に鼻が挿入されると、エラーになります。）
- 8 ③～⑦を3回くり返し、別紙の記録用紙に記載します。放っておくと機器の電源は自動で切れます。

記録用紙

慣れるまで測定結果が安定しないこともあります。まずは数回練習してみてください。安定した結果が出るようでしたら、続けて3回測定し、それぞれの測定値とエラー表示(!)の有無をご記入ください。これを3日行って下さい。期間内になんども検査がうまく出来ないうち、あるいは安定した結果が得られない場合にはお問い合わせ下さい。

月 日	1回目	2回目	3回目
PEFの値			
FEV ₁ の値			
エラー表示(!)の有無	あり / なし	あり / なし	あり / なし

月 日	1回目	2回目	3回目
PEFの値			
FEV ₁ の値			
エラー表示(!)の有無	あり / なし	あり / なし	あり / なし

月 日	1回目	2回目	3回目
PEFの値			
FEV ₁ の値			
エラー表示(!)の有無	あり / なし	あり / なし	あり / なし

ご協力ありがとうございました。

結果の記入例

例 1



	例 1
PEFの値	384
FEV ₁ の値	2.33
エラー表示(!)の有無	あり/なし

例 2



	例 2
PEFの値	106
FEV ₁ の値	0.85
エラー表示(!)の有無	あり/なし

喘息群

喘息群

この1年間のぜん喘の症状に関する調査票 W	この1年間のぜん喘の症状に関する調査票 B
<p style="text-align: center;">この1年間のぜん喘の症状に関する調査票 W</p> <p>ぜん喘とは、ゼーゼー・ヒューヒューのことです。 あてはまる答えの□にチェックをするか、塗りつぶしてください。</p> <p>お子様の年齢、身長、体重をご記入ください。</p> <p>年齢：□□歳 □□か月 身長：□□□.□ cm 体重：□□.□ kg</p> <p>この1年間にぜん息と診断されましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい</p> <p>① この1年間にぜん喘がありましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> なし → 1枚目は終了です。2枚目の「この1年間の薬に関する調査票」にお進みください。 <input type="checkbox"/> あり → ②、③にお進みください。</p> <p>② ぜん喘の頻度はどれくらいでしたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 2-3か月に1回 <input type="checkbox"/> 月に1回 <input type="checkbox"/> 週に1回 <input type="checkbox"/> 週に2-3回 <input type="checkbox"/> 毎日</p> <p>③ 特に運動をしていなくてもぜん喘で呼吸困難感があったり、日常生活（食事、睡眠など）が障害されるようなぜん喘がありましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> なし → 1枚目は終了です。2枚目の「この1年間の薬に関する調査票」にお進みください。 <input type="checkbox"/> あり → ④にお進みください。</p> <p>④ ③のようなぜん喘の頻度はどれくらいでしたか</p> <p><input type="checkbox"/> 週に1回未満 <input type="checkbox"/> 週に1回以上</p>	<p style="text-align: center;">この1年間のぜん喘の症状に関する調査票 B</p> <p>ぜん喘とは、ゼーゼー・ヒューヒューのことです。 あてはまる答えの□にチェックをするか、塗りつぶしてください。</p> <p>お子様の年齢、身長、体重をご記入ください。</p> <p>年齢：□□歳 □□か月 身長：□□□.□ cm 体重：□□.□ kg</p> <p>① この1年間にぜん喘がありましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> なし → 1枚目は終了です。2枚目の「この1年間の薬に関する調査票」にお進みください。 <input type="checkbox"/> あり → ②、③にお進みください。</p> <p>② ぜん喘の頻度はどれくらいでしたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 2-3か月に1回 <input type="checkbox"/> 月に1回 <input type="checkbox"/> 週に1回 <input type="checkbox"/> 週に2-3回 <input type="checkbox"/> 毎日</p> <p>③ 特に運動をしていなくてもぜん喘で呼吸困難感があったり、日常生活（食事、睡眠など）が障害されるようなぜん喘がありましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> なし → 1枚目は終了です。2枚目の「この1年間の薬に関する調査票」にお進みください。 <input type="checkbox"/> あり → ④にお進みください。</p> <p>④ ③のようなぜん喘の頻度はどれくらいでしたか</p> <p><input type="checkbox"/> 週に1回未満 <input type="checkbox"/> 週に1回以上</p>

■成人喘息部門：

計約 10 万人規模の 3 つの健康保険組合集団を対象に、H23 年から H25 年のレセプト情報（診療報酬明細書、調剤報酬明細書）と特定健康診査の結果のデータを収集した。レセプト病名と処方パターンから「レセプト喘息」を定義した。

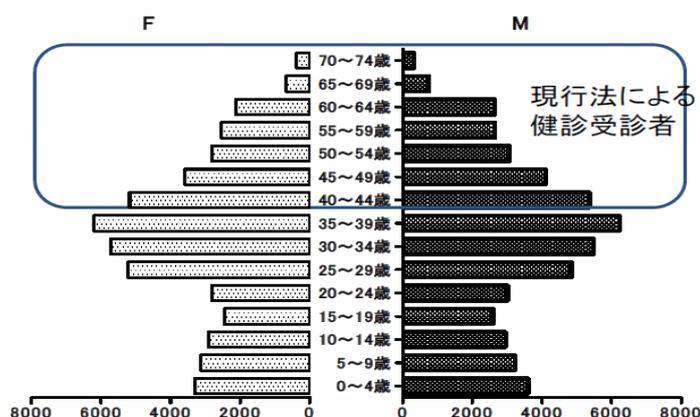
- 1) H24 年時点で過去 2 年間喘息のレセプトが発生していない者の、H25 年のレセプト発生状況を前向きに評価した。
- 2) H24 年のレセプト情報と特定健康診査の結果をベースライン情報として、その後の喘息の新規発症の危険因子の解析を行った。
- 3) Outcome H25 年の「レセプト喘息」の発生
- 4) Statistical analysis レセプト喘息の発症率（incidence）を算出し、発症の危険因子をロジスティック回帰分析にて行った。

～（成人喘息部門）図 1～

対象とした健康保険組合の年齢性別分布

H23年 3つの健康保険組合の合計値

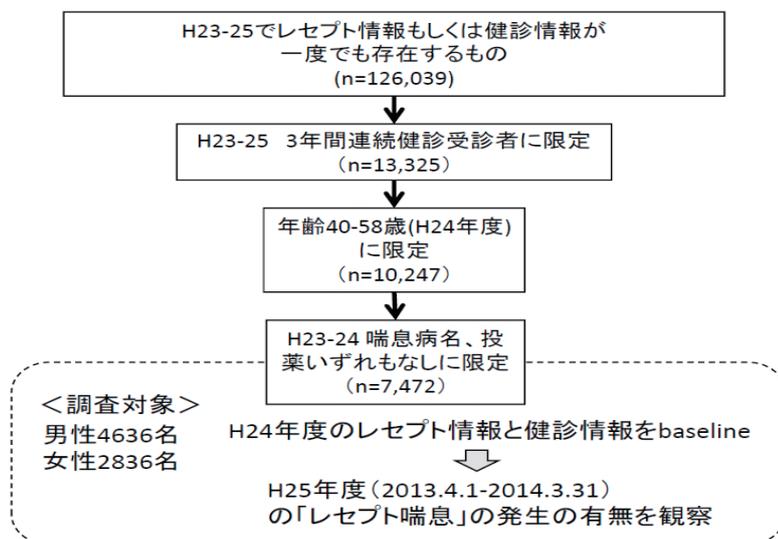
	男	女	計
0～4歳	3,618	3,287	6,905
5～9歳	3,232	3,119	6,351
10～14歳	2,955	2,909	5,864
15～19歳	2,593	2,451	5,044
20～24歳	3,018	2,809	5,827
25～29歳	4,847	5,221	10,068
30～34歳	5,492	5,721	11,213
35～39歳	6,226	6,190	12,416
40～44歳	5,376	5,168	10,544
45～49歳	4,110	3,583	7,693
50～54歳	3,068	2,811	5,879
55～59歳	2,655	2,541	5,196
60～64歳	2,641	2,121	4,762
65～69歳	762	684	1,446
70～74歳	321	373	694
合計	50,914	48,988	99,902



健保組合加入者数 = 99,902

本研究の対象集団と研究の方法：

10万人規模の健康保険組合の3年間のレセプト、健診データより



4 平成26年度の研究成果

■小児喘息部門：

平成26時点で予後調査を継続している1096人は喘息群770人、喘鳴群189人、喘鳴群から喘息群へ移行した移行群137人、となっている。平成26年12月に調査継続児で海外に在住中の2名を除く1094人に対して平成26年度の呼吸機能検査の調査への参加可否をはがきによりたずねた。平成27年2月5日時点で592人より回答があり、そのうち429人から調査への協力の意思が得られている。

平成26年12月より協力可能な児に対して簡易呼吸機能検査機器（アスマワン）の送付を開始した。平成27年2月5日時点で47人が検査を終えており、調査を継続中である。

■成人喘息部門：

前向き研究の統計解析モデルで、女性のBMI 25kg/m²以上の肥満と90cm以上の腹囲（内臓肥満）が喘息新規発症の危険因子として見出された。これまでの横断的研究で、BMI、腹囲、腹囲身長比と喘息との関係が示されていたが、本研究では同様の結果が、前向き研究のモデルで確認できた。本研究により肥満と喘息の因果関係がより強固に示された。

～（成人喘息部門）表1～

H24年のBMI、腹囲と翌年の「レセプト喘息」発症との関係：
ロジスティック回帰分析

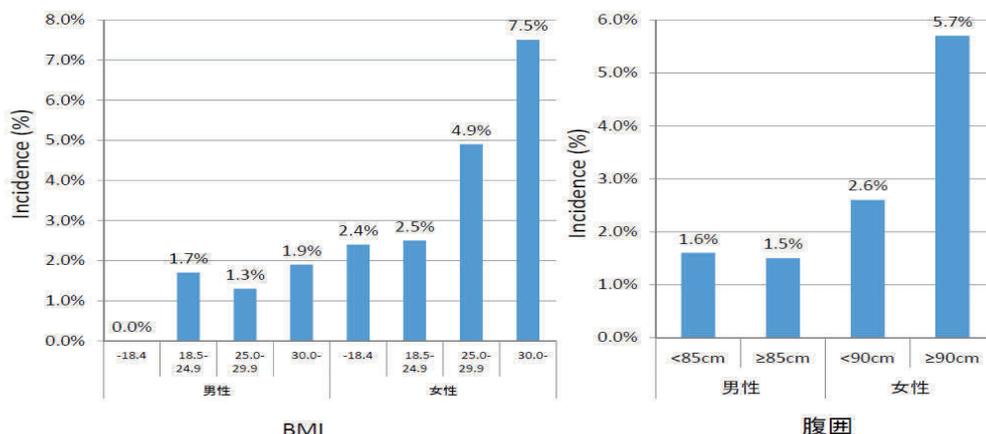
性別	肥満関連指標	Crude OR	P value	Adjusted OR†	P value
男性	Body mass index (kg/m ²)				
	<18.4	-		-	
	18.5-24.9	1		1	
	25.0-29.9	0.74 (0.42-1.33)	0.315	0.73 (0.41-1.31)	0.294
	30.0-	1.12 (0.46-2.91)	0.767	1.15 (0.46-2.92)	0.763
女性	Body mass index (kg/m ²)				
	<18.4	0.94 (0.46-1.93)	0.869	0.96 (0.47-1.97)	0.912
	18.5-24.9	1		1	
	25.0-29.9	2.01 (1.16-3.48) ‡	0.013	1.99 (1.15-3.45) ‡	0.015
	30.0-	3.17 (1.40-7.19)	0.006	3.22 (1.42-73.2)	0.005
女性	腹囲 (cm)				
	<90	1		1	
	≥90	2.27 (1.33-3.88) ‡	0.003	2.30 (1.34-3.94) ‡	0.002

† After the adjustment with age groups and smoking status.

‡ p-interaction between men and women <0.05

～（成人喘息部門）図2～

H24年のBMI、腹囲と「レセプト喘息」発症率との関係



5 考察

■小児喘息部門：

今回初めて前向き調査により、喘鳴や喘息小児例の長期予後が、症状だけでなく、肺機能低下の面から明らかになる予定である。今回の結果は、回収率も60%以上を保たれており、国際的にも重要なエビデンスとなりうる。今後のソフト3事業へその結果を反映したい。

■成人喘息部門：

日本人の成人喘息発症の危険因子として、肥満の重要性が前向き研究のモデルで初めて示された。

本研究は1年間しか観察期間を設けられていないが、今後は、観察期間を長くすることにより統計学的なパワーが増し、さらに詳細な解析を行うことが可能であると期待できる。

内臓肥満減少をターゲットとした生活習慣指導によって、喘息患者のコントロール状態の改善が見込めるか否かについて、さらには、今後のソフト3事業にメタボ対策を加えるべきかという点についても、併せて検討する必要があるものと考えます。

6 次年度に向けた課題

■小児喘息部門：

平成26年度に引き続き簡易呼吸機能検査機器による調査を継続し、喘息の経過と治療内容と呼吸機能との関連について解析を行う予定である。肺機能低下に関与する危険要因が明確になれば、それを生かしたソフト3事業の構築も可能となる。

■成人喘息部門：

日本人の成人喘息の発症危険因子として、肥満の重要性が横断的研究だけでなく、前向き研究のモデルで初めて示された。今回の研究は1年間しか観察期間を設けられていない。今後、より観察期間を長くすることにより統計学的な精度が増すため、より正確な結果を本研究方法で導きたい。また今後は、内臓肥満減少をターゲットとした生活習慣指導によって、喘息患者のコントロール状態の改善が見込めるか否かについて、本研究方法を用いて、前向きに証明したい。

7 期待される成果及び活用の方向性

気管支喘息の適切な治療・管理を行うためには、患者自身の自己管理が重要なことは、これまでの内外の研究で明らかとなっている。環境再生保全機構がこれまで実施してきたソフト3事業は、喘息患者（児）が自己管理する上で、大きな役割を果たしてきた。

本研究班の成果は、ソフト3事業の効果の正確な検証につながるとともに、今後の事業への重要な新たな資料（自己管理や指導方法）を提供する研究である。さらに、日本人喘息（小児、成人）の予後、増悪背景などを、前向きに初めて証明しうる研究であり、その結果を生かしたガイドラインや国際誌への情報発信、ならびに新規のより正しい自己管理方法の提唱が可能になると確信する。さらに、従来の薬物治療を中心とした管理方法ではなく、患者自身が、「薬以外でよくなる」、「喘息を予防できる自己管理方法」の選択が可能となり、喘息医療へ間接的ながら大きく貢献できると思われる。

【学会発表・論文】

■小児喘息部門：

1. 学術論文

<2014年(H26)>

- 1) Sasaki M, Yoshida K, Adachi Y, Furukawa M, Itazawa T, Odajima H, Saito H, Akasawa A : Factors associated with asthma control in children: findings from a national web-based survey. *Pediatr Allergy Immunol*. 2014 Dec 2. doi: 10.1111/pai.12316. [Epub ahead of

print]

- 2) Murakami Y, Honjo S, Odajima H, Adachi Y, Yoshida K, Ohya Y, Akasawa A. : Exercise-induced wheezing among Japanese pre-school children and pupils, *Allergology International*. 2014 ; 63(2) : 251-9
- 3) Yoshida K, Adachi Y, Sasaki M, Furukawa M, Itazawa T, Hashimoto K, Odajima H, Akasawa A. : Test-retest reliability of the International Study of Asthma and Allergies in Childhood questionnaire for a web-based survey. *Annals of Allergy, Asthma & Immunology*. 2014 ; 112(2) : 181-2
- 4) Hamasaki Y, Kohno Y, Ebisawa M, Kondo N, Nishima S, Nishimuta T, Morikawa A, Aihara Y, Akasawa A., Adachi Y, Arakawa H, Ikebe T, Ichikawa K, Inoue T, Iwata T, Urisu A, Ohya Y, Okada K, Odajima H, Katsunuma T, Kameda M, Kurihara K, Sakamoto T, Shimojo N, Suehiro Y, Tokuyama K, Nambu M, Fujisawa T, Matsui T, Matsubara T, Mayumi M, Mochizuki H, Yamaguchi K, Yoshihara S : Japanese pediatric guideline for the treatment and management of bronchial asthma 2012, *Pediatrics International*. 2014 ; 56(4) : 441-50
- 5) Yoshida K, Adachi Y, Sasaki M, Furukawa M, Itazawa T, Hashimoto K, Odajima H, Akasawa A. : Time-dependent variation in the responses to the Web-based ISAAC questionnaire. *Annals of Allergy, Asthma & Immunology*. 2014 ; 113(5) : 539-43

<2013 年(H25)>

- 1) Yoshida K, Adachi Y, Sasaki M, Furukawa M, Itazawa T, Hashimoto K, Odajima H, Akasawa A. : Test-retest reliability of the International Study of Asthma and Allergies in Childhood questionnaire for a web-based survey. *Ann Allergy Asthma Immunol*. 2014 Feb;112(2):181-2.
- 2) Yoshida K, Adachi Y, Akashi M, Itazawa T, Murakami Y, Odajima H, Ohya Y, Akasawa A. : Cedar and cypress pollen counts are associated with the prevalence of allergic diseases in Japanese schoolchildren. *Allergy*. 2013 Jun;68(6):757-63
- 3) Higuchi O, Adachi Y, Itazawa T, Ito Y, Yoshida K, Ohya Y, Odajima H, Akasawa A., Miyawaki T. : Rhinitis has an association with asthma in school children. *Am J Rhinol Allergy*. 2013 Jan;27(1):e22-5.
- 4) Ito Y, Adachi Y, Yoshida K, Akasawa A. : No association between serum vitamin D status and the prevalence of allergic diseases in Japanese children. *Int Arch Allergy Immunol*. 2013;160:218-220
- 5) Morita H, Nomura I, Orihara K, Yoshida K, Akasawa A., Tachimoto H, Ohtsuka Y, Namai Y, Futamura M, Shoda T, Matsuda A, Kamemura N, Kido H, Takahashi T, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K. : Antigen-specific T-cell responses in patients with non-IgE-mediated gastrointestinal food allergy are predominantly skewed to T(H)2. *J Allergy Clin Immunol*. 2013 Feb;131(2):590-2. e1-6

2. 学会発表

<2014 年(H26)>

- 1) 吉田幸一、足立雄一、赤澤 晃。UV index とアトピー性皮膚炎有症率の関係。第 51 回日本小児アレルギー学会 2014. 11. 08 四日市市
- 2) Akasawa A., et.al. : Time trends in the prevalence of asthma in Japan. 2015 American Academy of Allergy Asthma and Immunology Meeting 2015. 02. 23 Houston TX
- 3) Sasaki M, Akasawa A. et. Al. : Factors Associated with Asthma Control in Children: Findings from a National Web-based Survey. American Academy of Allergy Asthma and Immunology Meeting 2015. 02. 23 Houston TX

<2013 年(H25)>

- 1) Akasawa A., Watanabe H, Yoshida K, Furukawa M, Fujisawa T, Ebisawa M, Odajima H, Outcome of childhood asthma observational follow-up study in first 4 years in Japan. 68th Annual

Meeting of American Academy of Allergy, Asthma & Immunology, Mar 2-6, 2012, Orland, FL, USA

- 2) Yoshida K, Furukawa M, Adachi Y, Odajima H, Ohya Y and Akasawa A. The high prevalence of allergic rhino-conjunctivitis and correlation with cedar and cypress pollen counts in Japanese schoolchildren. 68th Annual Meeting of American Academy of Allergy, Asthma & Immunology, Mar 2-6, 2012, Orland, FL, USA
- 3) Adachi Y, Okabe Y, Itazawa T, Yoshida K, Ohya Y, Odajima H, Akasawa A, Miyawaki T. Impact of rhinitis on asthma in Japanese school children. 68th Annual Meeting of American Academy of Allergy, Asthma & Immunology. 3.2-6, 2012, Orland, FL, USA.

■成人喘息部門：

1. 学術論文

<2014年(H26)>

- 1) Fukutomi Y, Taniguchi M, Nakamura H, Akiyama K : Epidemiological link between wheat allergy and exposure to hydrolyzed wheat protein in facial soap. Allergy 69(10): 1405-1411. 2014. / 原著 (欧文)
- 2) Takahashi K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Sekiya K, Watai K, Mitsui C, Tanimoto H, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Minoguchi K, Nakajima H, Akiyama K : Oral Mite Anaphylaxis Caused by Mite-Contaminated Okonomiyaki/Pancake-Mix in Japan. Allergology International 63(1) : 51-56. 2014. / 原著 (欧文)
- 3) 清水薫子, 今野哲, 木村孔一, 荻喬博, 谷口菜津子, 清水健一, 伊佐田朗, 服部健史, 檜澤伸之, 谷口正実, 赤澤晃, 西村正治 : 北海道上土幌町における成人喘息, アレルギー性鼻炎有病率の検討—2006年, 2011年の比較—. アレルギー Japanese Journal of Allergology. 2014 : 63(7) : 928-937, 2014. / 原著 (邦文)
- 4) 伊藤潤, 粒来崇博, 熱田了, 渡井健太郎, 福原正憲, 林浩昭, 南崇史, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 原田紀宏, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 谷口正実, 高橋和久, 秋山一男 : 本邦における呼気一酸化窒素濃度の機種差検討. オフライン法, NO breath®の比較. アレルギー. 2014: 63(9) : 1241-1249, 2014. / 原著 (邦文)
- 5) 谷口正実, 三井千尋, 林浩昭, 伊藤潤, 南崇史, 渡井健太郎, 東憲孝, 小野恵美子, 福富友馬, 谷本英則, 関谷潔史, 粒来崇博, 秋山一男 : III. アレルギー・免疫的機序 31. アスピリン喘息(NSAIDs 過敏喘息). 『呼吸』エッセンシャルズ 呼吸器疾患のピットフォール: pp.143-148, 一般社団法人呼吸研究, 東京都, 2015年1月, 2015/ 著書総説 (邦文)
- 6) 谷口正実, 三井千尋, 東憲孝, 小野恵美子, 林浩昭, 福富友馬, 関谷潔史, 粒来崇博, 石井豊太, 森晶夫, 梶原景一, 三田晴久, 秋山一男 : 特集 難治性喘息 Up-Date—病態から治療まで— 喘息の難治化因子～アスピリン喘息～. Respiratory Medical Research. 2015: 3(1) : pp.36-41, 2015年1月, 2015/ 著書総説 (邦文)
- 7) 谷口正実: Obituary Commemorating the passing of Prof. Kazuo Akiyama. Allergology International. 2015: 64: in press, 2015/ 著書総説 (欧文)
- 8) 谷口正実: 特集 気道過敏性の分子メカニズムと治療 「気道過敏性機序を解明することの重要性」, アレルギーの臨床 No.455, 34(3): 16, 2014. / 総説 (邦文)
- 9) 谷口正実: 特集 気道過敏性の分子メカニズムと治療「5. 気道過敏性検査の実際とその意義」, アレルギーの臨床 No.455, 34(3): 39-43, 2014. / 総説 (邦文)
- 10) 谷口正実, 三井千尋, 三田晴久 : 特集 子どもの気管支喘息:気管支喘息に関連する脂質メダイエーター, 小児科学レクチャー 4(2): 458-466, 2014/ 総説 (邦文)
- 11) 谷口正実: 特集=高齢者のアレルギー疾患 アレルギーとアレルギー疾患の原因となるアレルゲン, Aging & Health, No.69 23(1): 12-15, 2014/ 総説 (邦文)
- 12) 谷口正実, 秋山一男 : イチから知りたいアレルギー診療—領域を超えた総合対策—I. アレルギー総論, 1. 概念, 病態, メカニズム, 株式会社全日本病院出版会: 2-5, 2014/ 総説 (邦文)
- 13) 谷口正実: 早めの診断が大切!コワイカビのアレルゲン A. fumigatus(アスペルギルスの一菌種)—喘息とアレルギー性気管支肺アスペルギルス症—, ALLAZiN, Summer, 2014/総説 (邦文)

- 10) 谷口正実: γ グロブリン大量療法, 呼吸 33(6) : 581-590, 2014/ 総説 (邦文)
- 11) 谷口正実, 福富友馬: 吸入性アレルギーの同定と対策 (監修), 株式会社メディカルレビュー社(東京), 2014/ 著書 (邦文)
- 12) 谷口正実, 福富友馬: 吸入性アレルギーの同定と対策, 序章 - 吸入性アレルギーの同定, 第I章 - 吸入性アレルギー・真菌, 第III章アレルギー Q&A, : pp1-5, 22-33, 59-64, 株式会社メディカルレビュー社(東京), 2014/ 著書 (邦文)
- 13) 谷口正実, 三井千尋, 東憲孝, 小野恵美子, 林浩昭, 福富友馬, 南崇史, 伊藤潤, 谷本英則, 関谷潔史, 粒来崇博, 森昌夫, 石井優太, 梶原景一, 三田晴久, 秋山一男: 好酸球性鼻鼻腔炎とアスピリン喘息, RESPIRATORY TRENDS 4(1) : 12-15, 2014/ 総説 (邦文)
- 14) 谷口正実, 三井千尋, 林浩昭: アスピリン喘息(NSAIDs 過敏喘息), Progress in Medicine 34(6) : 53-57, 2014/ 総説 (邦文)
- 15) 谷口正実: 好酸球性多発血管炎性肉芽種症, 内科 113(6) : 1359-1360, 2014/ 総説 (邦文)
- 16) 谷口正実, 石井豊太, 福富友馬, 秋山一男: 気道アレルギー(花粉症, 鼻アレルギー, 喘息)に対するアレルギー特異的免疫療法, 臨床免疫・アレルギー62(1) : 53-61, 2014/ 総説 (邦文)
- 17) 谷口正実, 関谷潔史: 気管支喘息, 調剤と情報 20(11) : 82-87, 2014/ 総説 (邦文)
- 18) 谷口正実: 職業性喘息, 呼吸器疾患診療最新ガイドライン: 251-255, 株式会社総合医学社(東京), 2014/ 著書 (邦文)
- 19) 谷口正実, 高増哲也: 日常生活の中でできる対策を見直そう ぜん息治療 薬だけに頼っていませんか?, すこやかライフ No.44: 2-9, 2014/ 総説 (邦文)
- 20) 谷口正実, 福富友馬, 関谷潔史, 石井豊太, 福岡美帆, 阿部敏秀, 山本武人, 鈴木洋史: 臨床医のためのクリニカルスタディー「花粉症(アレルギー性鼻炎)」(企画), Suzuken Medical 17(6) : 1-12, 2014. / 総説 (邦文)
- 21) 関谷潔史, 谷口正実: 治療最前線 喘息発作の治療, Mebio 31(1) : 43-51, 2014/ 総説 (邦文)
- 22) 関谷潔史, 谷口正実: 国立病院機構相模原病院の吸入指導の実際と提言, 吸入療法 6(1) : 60-69, 2014. / 総説 (邦文)
- 23) 谷口正実, 三井千尋, 林浩昭: アレルギー疾患の实地診療「治療」 外来を訪れるアレルギー疾患の臨床と最前線と一般的日常診療の実際 アスピリン喘(NSAIDs 過敏喘息) - 非専門医への指針と対応法 -, Medical Practice 31(2) : 255-260, 2014. / 総説 (邦文)

<2013年(H25)>

- 1) Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Watai K, Minami T, Hayashi H, Ito J, Tanimoto H, Oshikata C, Tsurikisawa N, Tsuburai T, Hasegawa M, Akiyama K. Age-specific characteristics of inpatients with severe asthma exacerbation. Allergol Int. 62(3):331-6. 2013. / 原著 (欧文)
- 2) 谷口正実, 福富友馬, 粒来崇博, 関谷潔史, 谷本英則, 三井千尋, 森昌夫, 秋山一男: 特集 II 重症喘息の背景因子と治療戦略 重症喘息の背景因子. 臨床免疫・アレルギー科, 59(3) : 338-345, 2013. / 総説 (邦文)
- 3) 福富友馬, 谷口正実: 【難治性気管支喘息の最前線】 難治性喘息の概念・定義・疫学. 呼吸器内科. 23(2) : 123-129. 2013. / 総説 (邦文)
- 4) 谷口正実: 産婦人科当直医マニュアル-慌てないための虎の巻【産科編 妊産褥婦の合併疾患 呼吸器疾患 喘息発作. 臨床婦人科産科. 67(4) : 222-228. 2013. / 総説 (邦文)
- 5) 谷口正実: 【気管支喘息:診断と治療の進歩】 喘息の亜型・特殊型・併存症 アスピリン喘息(NSAIDs 過敏喘息). 日本内科学会雑誌. 102(6) : 1426-1432, 2013. / 総説 (邦文)
- 6) 渡部拓, 今野哲, 辻野一三, 高階知紗, 佐藤隆博, 山田安寿香, 伊佐田朗, 谷口正実, 秋山一男, 赤澤晃, 西村正治. 日本人における肥満と喫煙状態の関連について. 糖尿病. 56(Suppl. 1) : S-362, 2013. / 総説 (邦文)
- 7) 福富友馬, 谷口正実, 秋山一男: 喘息発症・難治化リスクとしての肥満. IgE practice in Asthma 7(1) 通巻16: 21-24, 2013. / 総説 (邦文)
- 8) 谷口正実: アレルギー指導. 今日の指針 2014, 医学書院(東京), 2013. / 著書 (邦文)
- 9) 谷口正実: 2014 Healthcare Support Handbook. 谷口正実(監修) 独立行政法人環境再生保全機構. 東京法規出版(東京), 2013. / 著書 (邦文)

2. 学会発表

<2014年(H26)>

- 1) 伊藤潤, 谷口正実, 粒来崇博, 渡井健太郎, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 原田紀宏, 前田裕二, 森晶夫, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男: PP165 喘息患者における7-8年後の呼気一酸化窒素と呼吸機能の変化. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪府大阪市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 2) 福原正憲, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 渡井健太郎, 三井千尋, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 伊藤潤, 押方智也子, 関谷潔史, 福富友馬, 前田裕二, 森晶夫, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP168 呼気NOおよびモストグラフを用いた気道過敏性の予測. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪府大阪市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 3) 関谷潔史, 谷口正実, 渡井健太郎, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男: PP349 若年成人喘息においてペット飼育が肺機能に与える影響. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪府大阪市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 4) 林浩昭, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP361 アスピリン喘息と喫煙は関連するか. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪府大阪市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 5) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 福原正憲, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男: MS85 20歳代発症喘息における喫煙歴と呼吸機能・気道過敏性の関係. 第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪府大阪市, 2014. / 国内学会 (ミニシンポジウム)
- 6) 谷口正実: S18-6 EGPAの診断と治療 update. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京都, 2014. / 国内学会 (シンポジウム18)
- 7) Mori A, Kouyama S, Yamaguchi M, Iijima Y, Abe A, Ohtomo T, Fukuhara M, Itoh J, Hayashi H, Minami T, Watarai K, Mitsui C, Oshikata C, Tanimoto H, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Taniguchi M, Maeda Y, Ohtomo M, Hasegawa M, Akiyama K, Kaminuma OI): Study on T cell-induced bronchoconstriction in vivo and in vitro. Vii World Asthma, Allergy & COPD Forum, New York, USA, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 8) 伊藤潤, 粒来崇博, 谷口正実, 渡井健太郎, 福原正則, 林浩昭, 南崇文, 三井千尋, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 原田紀宏, 前田裕二, 森晶夫, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男: アスピリン負荷試験における呼気一酸化窒素濃度・鼻腔内一酸化窒素濃度測定の有用性の検討. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 9) 三井千尋, 梶原景一, 小野恵美子, 東憲孝, 渡井健太郎, 木下ありさ, 林浩昭, 伊藤潤, 福富友馬, 関谷潔史, 粒来崇博, 三田晴久, 森晶夫, 秋山一男, 谷口正実: アスピリン喘息におけるアスピリン誘発反応では血漿中の血小板活性化マーカーは上昇しない. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 10) 森晶夫, 神山智, 大友暁美, 大友隆之, 山口美也子, 飯島葉, 渡井健太郎, 福原正憲, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 伊藤潤, 押方智也子, 谷本英則, 福富友馬, 関谷潔史, 粒来崇博, 大友守, 前田裕二, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男, 神沼修: S2-1 サイトカインからみた喘息の重症化要因. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (シンポジウム2)
- 11) 関谷潔史, 谷口正実, 渡井健太郎, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男: MS3-3 遷延性及び慢性咳嗽患者における境界域FeNO症例の検討. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (ミニシンポジウム3)
- 12) 谷口正実: S11-3 EGPAの診断と治療 update. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (シンポジウム11)
- 13) 谷口正実: EVS7-2 成人喘息におけるアレルギー特異的免疫療法の意義. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (イブニングシンポジウム7)

- 14) 福富友馬, 谷本英則, 齋藤明美, 谷口正実 : S13-1 ABPA の診断. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (シンポジウム 13)
- 15) 林浩昭, 粒来崇博, 渡井健太郎, 三井千尋, 福原正憲, 南崇史, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 伊藤潤, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 前田裕二, 森晶夫, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男 : P093 気管支喘息症状と強制オシレーション法 (FOT) — 気管支喘息症状を有するが閉塞性障害を認めない症例の検討—. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 16) 南崇史, 福富友馬, 谷口正実, 齋藤明美, 安枝浩, 石井豊太, 渡井健太郎, 三井千尋, 福原正憲, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 粒来崇博, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男 : P023 成人発症大豆アレルギー患者における臨床症状の季節性変動. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 17) 粒来崇博, 谷口正実, 福富友馬, 東憲孝, 渡井健太郎, 佐藤祐, 福原正憲, 南崇史, 林浩昭, 伊藤潤, 谷本英則, 押方智也子, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 前田裕二, 長谷川眞紀, 秋山一男 : P134 国立病院機構相模原病院における思春期発症喘息の特徴. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 18) 清水薫子, 今野哲, 谷口菜津子, 西村正治, 檜澤伸之, 谷口正実, 赤澤晃 : P139 北海道上士幌町における成人喘息, アレルギー性鼻炎有病率の検討 — 2006 年, 2011 年の比較 —. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 19) 三井千尋, 小野恵美子, 梶原景一, 渡井健太郎, 林浩昭, 福富友馬, 伊藤潤, 関谷潔史, 粒来崇博, 東憲孝, 三田晴久, 森晶夫, 秋山一男, 谷口正実 : P197 アスピリン喘息におけるアスピリン誘発反応では血小板活性化マーカーは上昇しない. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 20) 伊藤潤, 粒来崇博, 谷口正実, 渡井健太郎, 福原正憲, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 原田紀宏, 前田裕二, 森晶夫, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男 : P198 アスピリン負荷試験における呼気一酸化窒素濃度・鼻腔内一酸化窒素濃度の測定の有用性の検討. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 21) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 福原正憲, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男 : P313 若年発症喘息における短期喫煙が呼吸機能へ及ぼす影響. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都府京都市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 22) Mori A, Kouyama S, Yamaguchi M, Iijima Y, Abe-Ohtomo A, Ohtomo T, Fukuhara M, Itoh J, Hayashi H, Minami T, Watarai K, Mitsui C, Oshikata C, Tanimoto H, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Taniguchi M, Ohtomo M, Maeda Y, Hasegawa M, Akiyama K, Kaminuma : Airflow limitation caused by activated T cells. European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress 2014, Copenhagen, Denmark, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 23) Mitsui C, Ono R, Kajiwarra K, Watai K, Hayashi H, Ito J, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Higashi N, Mori A, Mita H, Akiyama K, Taniguchi M : Is there any basophil activation in peripheral blood in AERD patients?. European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress 2014, Copenhagen, Denmark, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 24) Fukutomi Y, Kishikawa R, Sugiyama A, Minami T, Taniguchi M, Akiyama K : Risk factors for the development of wheat allergy among individuals who have used a facial soap containing hydrolyzed wheat protein: case-control study. European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress 2014, Copenhagen, Denmark, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 25) 関谷潔史, 谷口正実, 渡井健太郎, 齋藤奈津美, 木下ありさ, 林浩昭, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男 : 若年成人喘息においてペット飼育が肺機能に与える影響. 第 45 回日本職業・環境アレルギー学会 総会・学術大会, 福岡県福岡市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 26) 福富友馬, 谷口正実, 秋山一男 : 成人喘息の有病率の動向に関する ecological study. 第 45

- 回日本職業・環境アレルギー学会 総会・学術大会, 福岡県福岡市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 27) 林浩昭, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 梶原景一, 伊藤律子, 谷本英則, 押方智也子, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 粒来崇博, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男:P5-7 アスピリン喘息と喫煙歴は関連するか. 第35回日本炎症・再生医学会, 沖縄県名護市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
 - 28) 三井千尋, 谷口正実, 梶原景一, 秋山一男:P5-8 アスピリン喘息では特異的に抹消血血小板が活性化している, 第35回日本炎症・再生医学会, 沖縄県名護市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
 - 29) 谷口正実: シンポジウム アスピリン喘息における病態解明の進歩. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (シンポジウム)
 - 30) 福富友馬, 谷口正実, 齋藤明美, 安枝浩, 秋山一男:P4-3 日本における吸入アレルギー感作率の地域差. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 31) 福富友馬, 谷口正実, 入江真理, 下田照文, 岡田千春, 中村陽一, 秋山一男:P5-1 中年期成人における肥満指標と喘息の関係: 2011年特定健康診査からの知見. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 32) Ito J, Fukutomi Y, Minami T, Mitsui C, Kamezaki H, Nakamura R, Saito A, Watai K, Sekiya K, Oshikata C, Tsurikizawa N, Tsuburai T, Harada N, Atsuta R, Takahashi K, Taniguchi M, Akiyama K: Three cases of anaphylaxis caused by macrogol. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 33) Ito J, Tsuburai T, Taniguchi M, Watai K, Mitsui C, Sekiya K, Oshikata C, Tsurikizawa N, Fukutomi Y, Harada N1), Atsuta R1), Takahashi K1), Akiyama K: Change in nasal nitric oxide and fractional exhaled nitric oxide during oral aspirin challenge. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 34) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 木下ありさ, 三井千尋, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男:P5-5 若年成人発症喘息における短期喫煙が呼吸機能へ及ぼす影響. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 35) 林浩昭, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 渡井健太郎, 齋藤奈津美, 木下ありさ, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 粒来崇博, 前田裕二, 森晶夫, 秋山一男:P6-1 アスピリン喘息と喫煙歴は関連するか. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 36) 三井千尋, 小野恵美子, 梶原景一, 渡井健太郎, 木下ありさ, 林浩昭, 福富友馬, 関谷潔史, 粒来崇博, 森晶夫, 秋山一男, 谷口正実: P6-2 Is there any basophil activation in peripheral blood in AERD patients?. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 37) 木下ありさ, 伊藤潤, 粒来崇博, 谷口正実, 渡井健太郎, 林浩昭, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 森晶夫, 熱田了, 高橋和久, 本間栄, 秋山一男:P8-1 治療下にありながら呼気一酸化窒素高値が持続する喘息患者における予後の検討. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 38) Sekiya K, Taniguchi M, Watai K, Saito N, Mitsui C, Hayashi H, Ito J, Oshikata C, Tsurikizawa N, Fukutomi Y, Tsuburai T, Mori A, Akiyama K: The Border line Fractional Exhaled Nitric Oxide in Patients With Prolonged / Chronic Cough. The 24th congress of interasma Japan / North asia, Nagoya, Japan, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 39) Hayashi H, Tsuburai T, Saito N, Watai K, Kinoshita A, Mitsui C, Oshikata C, Ito J, Tsurikizawa N, Fukutomi Y, Sekiya K, Maeda Y, Mori A, Taniguchi M, Akiyama K: Can forced oscillation technique parameters predict airway hyperresponsiveness to histamine?. European Respiratory Society International congress 2014, Munich, Germany, 2014. / 国際学会 (一般演題)
 - 40) Mori A, Kouyama S, Yamaguchi M, Iijima Y, Abe A, Ohtomo T, Fukuhara M, Itoh J, Hayashi

- H, Minami T, Watarai K, Mitsui C, Oshikata C, Tanimoto H, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Taniguchi M, Maeda Y, Ohtomo M, Hasegawa M, Akiyama K, Kaminuma O : T cell induced-bronchoconstriction in vitro and in vivo. 30th Symposium of The Collegium Internationale Allergologicum, Petersberg, Germany, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 41) Mori A, Kouyama S, Yamaguchi M, Iijima Y, Abe A, Ohtomo T, Fukuhara M, Itoh J, Hayashi H, Minami T, Watarai K, Mitsui C, Oshikata C, Tanimoto H, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Taniguchi M, Maeda Y, Ohtomo M, Hasegawa M, Akiyama K, Kaminuma O: Analysis of T cell-dependent bronchoconstriction. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respirology, Bali, Indonesia, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 42) 三井千尋, 谷口正実, 梶原景一, 齋藤奈津美, 渡井健太郎, 木下ありさ, 林浩昭, 福富友馬, 関谷潔史, 粒来崇博, 前田裕二, 森晶夫, 出原賢治, 秋山一男 : AIA において血清ペリオスチンは有用なマーカーである, 第 68 回国立病院総合医学会, 横浜市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 43) 福富友馬, 岸川禮子, 杉山晃子, 原田芳徳, 片田圭宣, 南崇史, 谷口正実, 秋山一男 : 加水分解コムギ含有石鹼使用者における小麦アレルギー発症危険因子: 症例対照研究, 第 68 回国立病院総合医学会, 横浜市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 44) 林浩昭, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 伊藤伊津子, 梶原景一, 渡井健太郎, 齋藤奈津美, 木下ありさ, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 粒来崇博, 前田裕二, 森晶夫, 秋山一男 : Aspirin intolerant asthma (AIA) と喫煙歴は関連するか, 第 68 回国立病院総合医学会, 横浜市, 2014. / 国内学会 (一般演題)
- 45) Mori A, Kouyama S, Yamaguchi M, Iijima Y, Ohtomo A, Ohtomo T, Itoh J, Hayashi H, Watarai K, Mitsui C, Oshikata C, Fukuhara M, Tanimoto H, Fukutomi Y, Sekiya K, Tsuburai T, Maeda Y, Ohtomo M, Taniguchi M, Akiyama K, Kaminuma O: Development and treatment of steroid resistant asthma model by adoptive transfer of murine helper T cell clones. WAO Internal Scientific Conference 2014, Rio de Janeiro, Brazil, 2014. / 国際学会 (一般演題)
- 46) Taniguchi M : The Efficacy of Anti-IgE as a Therapy for AERD. 2015 American Academy of Allergy Asthma and Immunology Meeting, Houston, USA, 2015.02/ 国際学会

<2013 年(H25)>

- 1) 谷口正実, 福富友馬, 竹内保雄, 安枝 浩, 秋山一男: ES10-3 環境アレルゲンにおけるコンポーネント特異的 IgE 測定の意義, その現状と将来. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2013. / 国内学会 (シンポジウム)
- 2) Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y, Mitsui C, Tanimoto H, Takahashi K, Oshikata C, Tsuburai T, Tsurikisawa N, Hasegawa M, Akiyama K.: P3-4 Age-specific background in inpatients with severe asthma exacerbation. The 23th Congress of Interasthma Japan/North Asia, Tokyo, Japan, 2013. / 国際学会 (一般演題)
- 3) 東憲孝, 谷口正実, 大森久光, 東愛, 秋山一男: MS43 COPD 疫学 大規模検診データから見た気流閉塞因子の検討. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 4) 柴田夕夏, 福富友馬, 粒来崇博, 谷口正実, 齋藤明美, 安枝浩, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP596 中高齢発症喘息のアトピー素因とアレルゲン感作パターン. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 5) 関谷潔史, 谷口正実, 渡井健太郎, 三井千尋, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 伊藤潤, 押方智也子, 釣木澤尚実, 福富友馬, 大友守, 前田裕二, 粒来崇博, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP609 喘息大発作症例の臨床的検討(年齢階級別の検討). 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 6) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 南崇史, 林浩昭, 福富友馬, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP737 20 歳代発症喘息における短期喫煙が呼吸機能へ及ぼす影響. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)

- 7) 福富友馬, 谷口正実, 柴田夕夏, 粒来崇博, 齋藤明美, 安枝浩, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP777 成人喘息における感作抗原と喘息重症度の関係. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 8) 林浩昭, 粒来崇博, 渡井健太郎, 三井千尋, 南崇史, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: PP780 気管支喘息初診時における自覚症状と強制オシレーション法の相関性について. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 9) 伊藤潤, 粒来崇博, 渡井健太郎, 林浩昭, 南崇史, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 谷口正実, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男: PP795 呼気一酸化窒素濃度 (FENO) の機種差に関する検討 オフライン法, NO breath の比較. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 10) 伊藤潤, 粒来崇博, 渡井健太郎, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 谷口正実, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男: P-010 オフライン法と NO breath を用いた呼気一酸化窒素濃度の機種差検討. 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 神奈川県, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 11) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 南崇史, 林浩昭, 伊藤潤, 谷本英則, 押方智也子, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: P/O 20 歳代発症喘息における短期喫煙が治療効果へ及ぼす影響. 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 神奈川県, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 12) 林浩昭, 谷口正実, 三井千尋, 福富友馬, 渡井健太郎, 南崇史, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 関谷潔史, 粒来崇博, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男. P-080 Aspirin Intolerance Asthma (AIA) と喫煙歴は関連するか. 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 神奈川県, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 13) 柴田夕夏, 福富友馬, 三井千尋, 谷口正実, 秋山一男: P/O-301 日本における薬剤アレルギーおよびアナフィラキシーの有病率およびリスクファクター. 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 神奈川県, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 14) 伊藤潤, 粒来崇博, 渡井健太郎, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 谷本英則, 押方智也子, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 福富友馬, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 谷口正実, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男, 呼気一酸化窒素濃度 (FeNO) の機種差検討 (オフライン法, NO breath での比較). 第 9 回バイオマーカー研究会, 東京, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 15) 渡井健太郎, 関谷潔史, 谷口正実, 三井千尋, 福原正憲, 南崇史, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 秋山一男: 033-6 20 歳代発症喘息における喫煙歴 (pack years) と呼吸機能・気道過敏性の量反応関係. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 16) 関谷潔史, 谷口正実, 渡井健太郎, 南崇史, 福原正憲, 林浩昭, 谷本英則, 押方智也子, 伊藤潤, 釣木澤尚実, 福富友馬, 粒来崇博, 森晶夫, 長谷川眞紀, 秋山一男: 037-5 若年成人喘息においてペット飼育が肺機能に与える影響. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 17) 伊藤潤, 谷口正実, 粒来崇博, 渡井健太郎, 福原正憲, 林浩昭, 南崇史, 三井千尋, 谷本英則, 押方智也子, 釣木澤尚実, 関谷潔史, 福富友馬, 原田紀宏, 前田裕二, 森晶夫, 長谷川眞紀, 熱田了, 高橋和久, 秋山一男: 049-3 かつて NO が高値で, かつ一応安定している患者の 5-7 年後の肺機能などの予後検討. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)
- 18) 林浩昭, 粒来崇博, 渡井健太郎, 三井千尋, 福原正憲, 南崇史, 谷本英則, 福富友馬, 押方智也子, 伊藤潤, 関谷潔史, 釣木澤尚実, 大友守, 前田裕二, 森晶夫, 谷口正実, 長谷川眞紀, 秋山一男: 059-2 MostGraph と ACT の関連について; 閉塞性障害のない症例群における検討. 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都, 2013. / 国内学会 (一般演題)